

最近の若い人は電車の中でお年寄りに席を譲らないといわれていますが、では、譲られる方の人には問題はないのでしょうか。一番の問題は、譲られても拒否する老人です。席を譲ろうとする若者がいたら、お年寄りはとりあえず席に座るべきです。

まず第一に、礼儀としてどうなのでしょう。人の親切はありがたく受け入れるものでしょう。お歳暮でもお中元でもバレンタインの義理チョコでも、それを突き返すのってとても失礼ですよ。電車の席も同じです。

次に、教育上の問題があります。現代の日本では、家庭を客人が訪問する機会などが減っていますので、子どもが知らない人に親切にする機会はほとんどありません。電車の中は、その数少ない機会の一つです。そこで、子どもからの親切を受けてやるというのは、年長の者の責務ともいえます。子どもに成長の機会を与えてやっているのだと思って、譲られたら気持ちよく座ってほしいです。

最後に、頑固な老人が拒否し続けると、本当に席を必要としている人が座れなくなるという問題があります。最近の若い人はコミュニケーションが苦手で、目の前に立っているお年寄りに声をかけるだけでも、大変な勇気が要るのです。勇気を出して声をかけても拒否されてしまうことが続くと、また拒否されるのが怖くて、声をかけられなくなってしまうのではないのでしょうか。その結果、本当に席を譲って欲しい人がいても、その人に席を譲る人がいなくなってしまうのです。

もちろん、ほとんどのお年寄りは「立ってもらうのは申し訳ない」と思って断るのでしょう。しかし、その思いやりは、若い人に向けるのではなく、本当に席を譲ってほしいと思っている人たちに向けるべきです。つまり、声をかけてもらったらその親切を受け入れることが、席を譲る若者を増やし、結果的に、本当の弱者が席に座れるようになるのだと思います。

若い人たちのマナーを批判するのは簡単ですが、親切を受ける側も、それをありがたく受け入れるようにするべきだと思います。

先日、電車で若い人が私に席を譲^{ゆず}ってくれようとしたので、ちょっとショックでした。私はそんな老人^{ろうじん}に見えたのだろうか、と思ってしまったのです。それで、その人には申し訳^{わけ}なかったのですが、席に座るのは遠慮^{えんりよ}しておきました。でも、若い人には相手が本当に席を必要としているかどうか、声をかける前にもうちょっとよく考えてほしいです。

まず第一に、どんなに年を取っても、人は老人に見られたくないものです。席を譲るのは「あなたはもう老人です」と宣告^{せんこく}しているようなものです。自分が老人だと自覚している人なら嬉しいかもしれませんが、そうでない人にはあまりありがたいお話ではありません。

次に、老人になっても、いろいろな体調の人がいるものです。杖^{つえ}をついていたりしたら、もちろん席を譲る必要はあると思いますが、年を取っていても元気な人はたくさんいるですよ。健康管理のために、わざわざ意識^{いしき}して立っている人もいます。逆に、働き盛り^{はたらき盛り}のサラリーマンたちの方が、ずっと疲れているように見えます。

それから、中には本当に席を必要としている人ももちろんいるとは思いますが、そういう人は間違いなく車両の端にある優先席^{ゆうせんせき}へ行くのではないのでしょうか。優先席では積極的^{せつぎよくてき}に席を譲ればよいと思いますが、そこ以外では安易に老人扱いするべきではないでしょう。

最後に、断られるのが怖いという人もいるようですが、そういう場合は席を押し付けてくる前に、席が必要かどうかを質問すればいいだけの話です。質問するのも怖いというような場合は、老人の肉体を心配する前に、自分の精神を健康にする必要があります。

いずれにせよ、親切の押し売り^{おしうり}は却^{かえ}って迷惑だということを、若い世代の人たちはよく認識^{にんしき}してほしいものです。